



〈 連載 (240) 〉

九州商船の船たち



大阪府立大学大学院・海洋システム工学分野・教授
池田 良穂

今年久しぶりに、佐世保湾の入口と長崎港の入口に陣取ってシップウォッチングを堪能する機会に恵まれた。昭和50年頃、まだ学生だった筆者は、北は稚内から南は石垣島まで、日本の各地の港に出向いて内航客船の姿をカメラに収めていた。そして日本内航客船資料編纂会という同好会を結成して、仲間と撮りためた内航船の姿を「日本の旅客船」という一冊の本にまとめた。

この時にも、長崎港口と佐世保港口には出向いていたが、当時はバスと徒歩で撮影ポイントに到着すると、ひたすら船が通過するのを何時間も待ったものだった。しかし、今ではレンタカーを借りて、ナビも駆使して最適な撮影ポイントを探し、車の中でパソコンに原稿を入力しながら、通過する船を待つといういささかイージーで優雅な趣味になってしまった。

撮影ポイントの様子もずいぶん変わった。特に、長崎港口には女神大橋がかかり、周辺道路も整備され、車を止めて船を待つこ

とのできる駐車場もいくつかできている。女神大橋には歩道橋もあり、橋の上からの撮影もできるのも嬉しい。

この女神大橋では、五島へ行く九州商船のカーフェリーとジェットフォイルの姿を見ることができる。フェリーの時刻表を事前に調査して、時間に合わせて行くのがベストだ。今回は橋の上から、九州商船の船たちの姿を会心のショットでカメラに納めることができ大いに満足した。橋の上から見ると、船の造るケルビン波の美しい形がはっきりと見える。これは大学での講義にも使えそうと思うと、シャッターを押す数も増えていく。

さて長崎と五島の福江を結ぶフェリーは、昭和40年代の終わりから貨客船からカーフェリーへと変わっていったが、学生時代に来た昭和50年には、まだ「楓丸」（かえでまる）や「鯨波丸」（げいはまる）が健在で、カーフェリーの第1船である「フェリー五島」の姿がまだぴかぴかに輝いていた。この船に続いて「フェリー椿」と「フェリー出島」が登場することとなる。

今回、女神大橋から撮影したのは「フェリー五島」と「フェリー長崎」の2隻で、かつてのフェリーは全て姿を消して、いずれも昭和60年代に建造された第2世代のカーフェリーである。彼女たちも、船齢30年を超す老朽船になっており、近々、新船が登場する予定とのことで楽しみだ。

女神大橋から見た出航するジェットフォイル「ペがさす2」の姿も新鮮だった。徐々に加速をして、船体が浮き上がり高速航走へと移る様子が、橋の上から目の当たりにできたからだ。40ノットの高速を誇って乗客を短時間で運ぶジェットフォイルと、遅いが車と乗客を黙々と運ぶカーフェリーの両輪で離島航路が成り立っている。

佐世保湾の入口での最大のお目当ては、昨年春に上五島航路にお目見えした九州商船の新鋭高速旅客船「シーキーン」の姿をカメラに収めることであった。この船は、アルミ高速艇の建造では定評のある瀬戸内クラフトの建造で、115総トン、30ノットの単胴船で、旅客定員は140名。佐世保と上五島の有川港とを1時間半で結ぶ。遅ればせながら、政府が老朽化しつつある離島航路船の船質改善のために予算化して建造された船と聞いていたので、どのような船か、ぜひ見てみたいと思っていた。時刻表を片手に、佐世保湾入口を通過する時間を見計らって護岸に立つと、時間通りに「シーキーン」が全速で佐世保湾へと入ってくる姿をカメラに収めることができた。

上五島航路には、高速船「シーキーン」と共に2隻のカーフェリーが就航している。「フェリーなみじ」は1,150総トンで、16ノット。船齢は22年。もう一隻は、一回り小

ぶりの645総トンの「フェリーなるしお」で、船齢は7年という離島航路にしては新鋭船だ。

五島列島も、クリスチャンの島として世界遺産への登録の動きもあるという。離島活性化の視点から、老朽化した船の単なる代替ということではなく、将来の離島航路のあり方を検討した上での新しい次世代型の海上交通システムを築くことが必要となっている。



女神大橋を通過する「フェリー長崎」



浮上しつつあるジェットフォイル「ペがさす2」



高速旅客船「シークィーン」

新
刊
案
内

海事レポート（平成22年版）

編著・資料提供 国土交通省海事局
協力 (財)日本海事センター
編集・発行 (財)日本海事広報協会

本書は、平成22年7月に国土交通省海事局が公表した「平成22年版 海事レポート」を書籍化したものです。

日本は四面を海に囲まれているため、国民生活や産業活動を支える上で、海事産業はとても重要な位置づけにあります。

本書では、その海事産業の幅広い分野についての各種データと現状分析を踏まえ、直面している課題やその対応策をまとめています。

特に、安定的な国際海上輸送の確保、環境問題への取組み、海賊対策、内航海運の振興、離島航路構造改革、海事人材の確保・育成、といった喫緊の課題を取り上げています。

海事産業に携わる方にとっては、統計資料等も豊富で実務に役立つ一冊です。是非ともお手元に置いてご活用されることをお勧めいたします。



A5判・並製・252頁・定価2,100円(5%税込)

発行所：(株)成山堂書店

〒160-0012 東京都新宿区南元町5-51

TEL. 03-3357-5861 FAX. 03-3357-5867

<http://www.seizando.co.jp>